

国語学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
国語学概論	日本語の歴史	2	大木 一夫	3	月	5	1
国語学概論	方言研究	2	小林 隆	4	月	5	2
現代日本語学概論	日本語学概論	2	甲田 直美	3	火	3	3
現代日本語学概論	ことばのバリエーション	2	甲田 直美	4	火	3	4
国語学基礎講読	古典語・方言講読	2	小林 隆	4	月	2	5
国語学基礎講読	近代(明治期)の文語 文講読	2	齋藤 倫明	3	水	5	6
国語学各論	方言学的日本語史研究	2	小林 隆	6	火	2	7
国語学各論	日本語文法研究	2	大木 一夫	5	木	2	8
国語学各論	日本語文法変化の研究	2	小柳 智一	集中(5)			9
現代日本語学各論	文章・談話の構造論	2	甲田 直美	5	月	3	10
現代日本語学各論	「連語」から見た「カテゴリーカルミーニング」	2	齋藤 倫明	5	月	4	11
国語学講読	三宝絵を読む(上)	2	大木 一夫	5	月	2	12
国語学講読	三宝絵を読む(下)	2	大木 一夫	6	木	2	13
国語学演習	方言調査法	2	小林 隆	5	火	2	14
現代日本語学講読	近世言語論講読	2	齋藤 倫明	6	水	5	15
現代日本語学演習	文章・談話の構造	2	甲田 直美	6	月	3	16

科目名：国語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：大木 一夫（教授）

講義コード：LB31502, **科目ナンバリング：**LHM-LIN203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本語の歴史

2. Course Title (授業題目)：

History of the Japanese language

3. 授業の目的と概要：

言語は変化する。これは言語がもつ本質的な性質である。そして、その変化の結果、古代の日本語が現在の日本語になったのである。それでは、日本語はどのようにうつりかわってきたのか。古代語から現代語まで変化してきた日本語の歴史の概要について把握する。また、同時に言語の歴史をとらえる方法の概要を把握する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本語の歴史について、その流れを略述し、重要事項が説明できるようになる。
- (2) 言語の歴史をとらえる方法について、説明できるようになる。
- (3) 日本語の歴史および日本語史の方法に関する問題点を見出し、それを説明することができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 言語は変化する
2. 日本語史の資料
3. 日本語文法史(1) 古代語文法体系（その1）
4. 日本語文法史(2) 古代語文法体系（その2）
5. 日本語文法史(3) 古代日本語文法の変容
6. 日本語文法史(4) 近代語の文法体系へ
7. 日本語文法史(5) 近代語文法体系（その1）
8. 日本語文法史(6) 近代語文法体系（その2）
9. 日本語文法史補遺
10. 語彙史とは何か
12. 日本語語彙史(1) 近代以前の語彙
13. 日本語語彙史(2) 近代語の語彙
14. 試験
15. まとめ

6. 成績評価方法：

上記の「到達目標」に即して、筆記試験およびいくつかの講義内の小課題で総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

7. 教科書および参考書：

テキスト：大木一夫『ガイドブック日本語史』（ひつじ書房）、他に必要に応じてコピーを配布する。参考文献は講義内で随時示す。

8. 授業時間外学習：

テキストの指定範囲を読み、十分理解して参加する。

9. その他：

科目名：国語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：小林 隆 (教授)

講義コード：LB41502, **科目ナンバリング：**LHM-LIN203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

方言研究

2. Course Title (授業題目)：

dialectology

3. 授業の目的と概要：

方言は身近な存在だけに、研究の対象にはならないと思っている人が多い。しかし、方言は国語学の研究分野のひとつとして位置づけられている。そもそも方言とは何なのか、それを研究するにはいかなる方法があるのか、あるいは、実際に日本語の方言はどのようなになっているのか、そういった問題をこの授業では取り上げる。「方言と方言学」「方言の音韻・アクセント・語彙・文法」「方言の分類」「現代の方言」などの基本的な内容のほか、方言の運用的側面や歴史的側面をテーマとすることもある。

4. 学習の到達目標：

- (1) 方言に対する関心を高め研究対象として理解できるようにする。
- (2) 方言研究について概括的な知識を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1. 1. 方言研究への導き
- 2. 2. 方言の音韻 (1)
- 3. 2. 方言の音韻 (2)
- 4. 3. 方言のアクセント (1)
- 5. 3. 方言のアクセント (2)
- 6. 4. 方言の語彙 (1)
- 7. 4. 方言の語彙 (2)
- 8. 5. 方言の文法 (1)
- 9. 5. 方言の文法 (2)
- 10. 6. 方言の表現法 (1)
- 11. 6. 方言の表現法 (2)
- 12. 7. 方言の歴史と現在 (1)
- 13. 7. 方言の歴史と現在 (2)
- 14. 7. 方言の歴史と現在 (3)
- 15. 8. 授業のまとめ

6. 成績評価方法：

筆記試験 (80%)・出席 (20%)

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は適宜教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

日ごろ、自分および自分の周囲の人々の方言について観察することで、授業の内容について体験的・具体的に理解するように努める。

9. その他：

オフィスアワー：随時

科目名：現代日本語学概論／ Modern Japanese (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：甲田 直美 (准教授)

講義コード：LB32301, 科目ナンバリング：LHM-LIN204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本語学概論

2. Course Title (授業題目)：

Modern Japanese

3. 授業の目的と概要：

日本語学の諸領域と言語の分析を構成する概念について解説する。

講義は以下の順序で進める。

- I. 人間の言語の特徴
- II. ことばと理解
- III. 構造主義と音声・音韻、音声と言語
- IV. 言語単位
- V. レトリックと言語

4. 学習の到達目標：

- (1) 国語学・日本語学における諸研究とその背景を理解する。
- (2) 文構造の研究が言語使用者の知識や認識と対応している様相を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 言語研究の基礎概念
2. 日本語の特色
3. 記号と言語
4. ことばと認識
5. カテゴリー認識と言語
6. 構造言語学とその後
7. 意味論の進展
8. 「体系」をめぐる概念
9. 日本語の音声
10. 語と文、そして文章
11. 文法論 1
12. 文法論 2
13. 文章論 1
14. 文章論 2
15. 研究テーマの設定の仕方と研究方法

6. 成績評価方法：

筆記試験 [60%]・出席 [10%]・提出物 [30%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

各テーマごとに小レポートを課し、各課の理解を確認する。

9. その他：

科目名：現代日本語学概論／ Modern Japanese (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：甲田 直美 (准教授)

講義コード：LB42301, 科目ナンバリング：LHM-LIN204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ことばのバリエーション

2. Course Title (授業題目)：

Variation in Japanese Language

3. 授業の目的と概要：

言語の持つ、地域、時代、使用者、媒体等によるバリエーションについて、研究の実例と分析方法について講義する。抽象的所有物ではなく、実際の場面で使用された、具体的使用文脈における言語を扱う。

4. 学習の到達目標：

- (1) 我々が日常使用している言語を観察・記述できるようになる。
- (2) 会話分析の基本的技能を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 言語資料の収集と作成
2. 言語資料の特性 1
3. 言語資料の特性 2
4. 言語資料の特性 3
5. 思考と言語
6. 書き言葉と話し言葉 1
7. 書き言葉と話し言葉 2
8. 物語と文化比較
9. 映像資料と音声資料、そして文字資料
10. 文法論と談話論の接点 1
11. 文法論と談話論の接点 2
12. 話者交替と参与構造
13. 会話の構造 1
14. 会話の構造 2
15. 研究の方法

6. 成績評価方法：

出席 10%、提出物 50%、筆記試験 50%

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。授業内で資料プリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

実際にデータ収集をし、観察・分析を行い、レポートを作成する。

9. その他：

科目名：国語学基礎講読／ Japanese Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：小林 隆（教授）

講義コード：LB41205, **科目ナンバリング：**LHM-LIN212J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

古典語・方言講読

2. Course Title (授業題目)：

Classical Japanese and dialects

3. 授業の目的と概要：

江戸時代に成立した全国方言集、越谷吾山の『物類称呼』を国語学的に読み解く。近世の言葉に親しむとともに、方言的な背景を明らかにしていく。テキストは版本を使用する。

授業は発表形式とする。参加者はテキストの割り当てられた範囲について、読解や調査を行ったうえでプリントを作成し、発表に臨むこととする。

4. 学習の到達目標：

- (1) 古典語を国語学的に読み解くために必要な方法論を修得すること。
- (2) 方言辞典や方言地図の利用方法を身に着けること。
- (3) 近世から現代にかけての方言の動態に興味を持つこと。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめにー授業への導入
2. 授業の内容と方法
3. 越谷吾山『物類称呼』について
4. 発表 1
5. 発表 2
6. 発表 3
7. 発表 4
8. 発表 5
9. 発表 6
10. 発表 7
11. 発表 8
12. 発表 9
13. 発表 10
14. 発表 11
15. まとめ

6. 成績評価方法：

平常点（出席状況等）、試験（変体仮名の解読等）、レポートの3つによって評価する。

7. 教科書および参考書：

教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

参加者はテキストの割り当てられた範囲について、読解や調査を行ったうえでプリントを作成し、発表に臨むことが必要である。

9. その他：

特になし。

科目名：国語学基礎講読／ Japanese Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：齋藤 倫明 (教授)

講義コード：LB33503, **科目ナンバリング：**LHM-LIN212J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

近代（明治期）の文語文講読

2. Course Title (授業題目)：

Reading of the Literary Language in the Meiji Period

3. 授業の目的と概要：

近代（明治期）の文語文を講読する。具体的には、「明六社」（1873 年結成）の機関誌『明六雑誌』（1874～1875 年刊・全 43 号）を読む。同誌には、西村茂樹、津田真道、西周、中村正直、加藤弘之、福沢諭吉ら当時の第一級の知識人が、文明開化論、言語政策、婦人問題、哲学、思想、経済、法律、教育等をめぐって様々な論説を発表した。明治初期の啓蒙期を象徴する学術雑誌である。本講読では、同誌の中から適宜文章を選択し、一字一句丁寧に読むことを通して、近代文語文に慣れるとともに、明治初期の日本語の具体的様相を把握することを目指す。

4. 学習の到達目標：

1. 近代文語文を精確に読めるようになる。
2. 明治初期の日本語の様相を把握する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス。「明六社」と「明六雑誌」についての概説と具体的な進め方に関する説明。
2. 第 1 回目の講読。
3. 第 2 回目の講読。
4. 第 3 回目の講読。
5. 第 4 回目の講読。
6. 第 5 回目の講読。
7. 第 6 回目の講読。
8. 第 7 回目の講読。
9. 第 8 回目の講読。
10. 第 9 回目の講読。
11. 第 10 回目の講読。
12. 第 11 回目の講読。
13. 第 12 回目の講読。
14. 第 13 回目の講読。
15. まとめ。

6. 成績評価方法：

レポート（60%）、授業への取り組み方（20%）、出席（20%）

7. 教科書および参考書：

特に使用しない。

必要があれば適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

授業に臨むに当たっては、前回分を復習の上、次回分を読んで下調べしておくこと。

9. その他：

国語学専修に所属する学生は必ず履修すること。

科目名：国語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：小林 隆（教授）

講義コード：LB62205, **科目ナンバリング：**LHM-LIN305J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

方言学的日本語史研究

2. Course Title (授業題目)：

study of the dialectological Japanese history

3. 授業の目的と概要：

これまでの国語史研究には、文献資料のみに頼り、しかも、中央語史に偏するという問題点があった。方言学的日本語史は、方言を視野に入れることによって、ことばの位相や地理的広がりの中で、従来の国語史の限界を超えることをめざす。この授業では、そのような研究の目的と方法論を解説し、具体的な歴史の記述を通してさまざまな課題について検討していく。

今回は特に、これまで研究が進んでいなかった言葉の運用面を取り上げることにし、その地域差を明らかにするとともに、社会的な視点も交えて歴史的考察へと進んでいきたい。

4. 学習の到達目標：

方言を視野に入れた日本語史研究について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 1. 授業への導入
2. 2. 目的・方法・資料
3. 3. オノマトペ（1）
4. 3. オノマトペ（2）
5. 4. 感動詞（1）
6. 4. 感動詞（2）
7. 5. 挨拶表現（1）
8. 5. 挨拶表現（2）
9. 6. 言語行動（1）
10. 6. 言語行動（2）
11. 7. 談話展開（1）
12. 7. 談話展開（2）
13. 8. 言語的発想法（1）
14. 8. 言語的発想法（2）
15. 9. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート（80%）・出席（20%）

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、補助資料を配布する。参考文献は、小林隆・澤村美幸『ものの言いかた西東』（岩波新書）のほか、授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

言葉の運用面の地域差について、自分および周囲の人たちの言葉遣いを観察し、授業の内容理解に役立てるようにする。

9. その他：

オフィスアワー：随時

科目名：国語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：大木 一夫（教授）

講義コード：LB54202, **科目ナンバリング：**LHM-LIN305J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本語文法研究

2. Course Title (授業題目)：

Study of Japanese grammar

3. 授業の目的と概要：

現代日本語の文法現象をとりあげ、それについての先行研究をふまえながら、文法的な分析を試みる。また、その内容について、具体的な例文にもとづきながら文法的に考え、議論する。テーマは、時間表現の文法。なお、より具体的な講義内容・日程等の詳細は、開講時に提示する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本語文法研究における先行研究の内容を把握し、その内容を説明できるようになる。
- (2) 日本語文法論における分析視点や論理展開の問題点を見いだすことができるようになる。
- (3) 文法論的に考え、その結果について報告や議論ができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 文法論の立場と方法
3. 文法論的分析(1)
4. 文法論的分析(2)
5. 文法論的分析(3)
6. 文法論的分析(4)
7. 文法論的分析(5)
8. 文法論的分析(6)
9. 文法論的分析(7)
10. 文法論的分析(8)
11. 文法論的分析(9)
12. 文法論的分析(10)
13. 文法論的分析(11)
14. 文法論的分析(12)
15. まとめ

6. 成績評価方法：

参加態度・講義内の小課題・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

7. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

8. 授業時間外学習：

- (1) テキストを読み、その内容の要点を把握して参加する。
- (2) 講義内の分析・議論についての疑問点を整理する。

9. その他：

科目名：国語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：小柳 智一 (非常勤講師)

講義コード：LB98818, **科目ナンバリング：**LHM-LIN305J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本語文法変化の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study of the grammatical change in Japanese

3. 授業の目的と概要：

日本語文法史の事例を整理することを通して、文法変化についての見方を深め、日本語研究の方法や態度を考えることを目的とする。取り上げるのは日本語文法史の個別的な事例だが、それらを一般的なレベルで俯瞰し、文法変化にどのような傾向があるか、なぜそのような傾向があるのか、という問題を考える。近年の文法変化研究で使用されている用語および概念を検討しながら、現にある事例を無理せず普通に見ることによって、どのような言語の景色が披けるかを試みる。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本語文法史に関する前提や基礎知識が理解できるようになる。
- (2) 文法変化についての多様な捉え方が理解できるようになる。
- (3) 立論のための整合的かつ体系的な思考法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 言語の歴史と記述
3. 言語変化の段階と要因
4. 言語変化の傾向と動向
5. 機能語生産
6. 文法的意味の源泉と変化
7. 文法変化の方向
8. 文法変化の方向と統語的条件
9. 「主観」という用語
10. 文法変化と多義化
11. 対人化と推意
12. 多義化と意味の連帯
13. 文法制度化
14. 消失の言語変化
15. まとめ

6. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

7. 教科書および参考書：

教科書として、小柳智一『文法変化の研究』（くろしお出版）を使用する。

参考文献は講義内で随時示す。

8. 授業時間外学習：

- (1) 教科書を読み、その内容の要点を把握して参加する。
- (2) 講義内の説明についての疑問点を整理し、解決に努める。

9. その他：

科目名：現代日本語学各論／ Modern Japanese (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：甲田 直美 (准教授)

講義コード：LB51302, 科目ナンバリング：LHM-LIN306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

文章・談話の構造論

2. Course Title (授業題目)：

Discourse and Conversation Structure

3. 授業の目的と概要：

文章・談話の構造は、どのようにして捉えることができるであろうか。研究手法としては、(1)文法論との接点から、談話・文章における結束性保持の手段を考える研究、(2)会話分析を中心とする実際に生じた会話の参与構造を扱う研究に大別できる。これらの研究について整理し、解説する。

4. 学習の到達目標：

(1)近年の研究で重要とされる理論を理解する。(2)授業で扱う研究の意義と限界・問題点について批判能力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 文章・談話研究とは～テーマ設定から分析まで～
2. 音声, イントネーション
3. ターン交替, TCU
4. 分析データの記述法
5. 音声転記の方法
6. コーパス, 言語のバリエーション
7. コンピューター実習 KWIC Finder, Praat, Audacity
8. 会話に頻繁に見られる現象 1
9. 会話に頻繁に見られる現象 2
10. 会話に頻繁に見られる現象 3
11. 会話に頻繁に見られる現象 4
12. 研究テーマの着眼点, レポートの書き方
13. 研究の進め方 1
14. 研究の進め方 2
15. レポートの書き方

6. 成績評価方法：

レポート [60%]・出席 [10%]・授業中の提出物 [30%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

会話・対話・談話研究のための分析単位の実際をデータを元に観察する。
音声言語コミュニケーションのための分析単位 IU の実際をデータと対照する。
会話データを作成し、会話分析の手法を体験する。
論文を読んで論点を提出する。

9. その他：

科目名：現代日本語学各論／ Modern Japanese (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：齋藤 倫明（教授）

講義コード：LB51402, 科目ナンバリング：LHM-LIN306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

「連語」から見た「カテゴリーカルミーニング」

2. Course Title (授業題目)：

“Categorical Meaning” viewed from the “Word Combination”

3. 授業の目的と概要：

「語」と「文」とは、基本的な言語単位として一般に認められているが、両者の間にも立場によって様々な言語単位が設定されている。そこで、本講義では、(1)従来、そういった言語単位としてどのようなものが設定されているのか、(2)なぜ様々な言語単位が設定されるのか、(3)本来、どういった言語単位を設定するのが望ましいのか、といった点について考察することを通し、最終的には、そもそも言語単位とは何か、といった点を明らかにすることを目指す。今年度は、そのための一環として教科研の「連語」という単位を取り上げ、それと意味との関わりという観点から、教科研に特有の意味的概念「カテゴリーカルミーニング」について検討する。

4. 学習の到達目標：

1. 「言語単位」についての理解を深める。
2. 種々の具体的な文法論の言語単位とその考え方について理解する。
3. 「語」と「文」の間にある言語単位の考え方について理解する。
4. 「連語」という単位とその問題点について理解する。
5. 「カテゴリーカルミーニング」について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス（前年度までの講義の流れ、今年度の予定等）
2. 「連語」について
3. 「連語」における問題点－意味との関わりから－
4. 「カテゴリーカルミーニング」とは何か
5. 「カテゴリーカルミーニング」についての先行研究（その一）
6. 「カテゴリーカルミーニング」についての先行研究（その二）
7. 先行研究の問題点（その一）
8. 先行研究の問題点（その二）
9. 「連語」と「カテゴリーカルミーニング」との関わり（その一）
10. 「連語」と「カテゴリーカルミーニング」との関わり（その二）
11. 「連語」と「カテゴリーカルミーニング」との関わり（その三）
12. 「カテゴリーカルミーニング」の新しい捉え方（その一）
13. 「カテゴリーカルミーニング」の新しい捉え方（その二）
14. 「カテゴリーカルミーニング」の新しい捉え方（その三）
15. まとめと今後の課題

6. 成績評価方法：

レポート [80%] ・ 出席 [10%] ・ その他 [10%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

参考書は講義中に適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回コメントペーパーを配布するので、前回自分が提出したコメントペーパーの内容について自分なりにある程度下調べをして講義に臨むようにする。

9. その他：

特になし。

科目名：国語学講読／ Japanese Linguistics (Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：大木 一夫 (教授)

講義コード：LB51208, **科目ナンバリング：**LHM-LIN313J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

三宝絵を読む (上)

2. Course Title (授業題目)：

Linguistic study of “Sampōe” (Illustrations of the Three Jewels)

3. 授業の目的と概要：

平安時代成立の仏教説話集「三宝絵」を丁寧に読みながら、日本語史の資料としての「三宝絵」がいかなる性格をもつものであるのか、そこに見られる言語はいかなるものなのかを、さまざまな視点から検討する。また、そのような検討をふまえ、「三宝絵」を資料の一端として、日本語の歴史・変遷の諸相を分析する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。
- (2) 日本語史上の問題点を見いだすことができるようになる。
- (3) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論をおこなうことができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 「三宝絵」 解題
3. 古辞書概説 (1)
4. 古辞書概説 (2)
5. 発表の方法
6. 担当範囲についての発表 (1)
7. 担当範囲についての発表 (2)
8. 担当範囲についての発表 (3)
9. 担当範囲についての発表 (4)
10. 担当範囲についての発表 (5)
11. 担当範囲についての発表 (6)
12. 担当範囲についての発表 (7)
13. 担当範囲についての発表 (8)
14. 担当範囲についての発表 (9)
15. 担当範囲についての発表 (10) ・まとめ

6. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

7. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配付する。参考文献は講義内で随時示す。

8. 授業時間外学習：

- (1) 日本語史研究にかかわる文献資料を読んで参加する。
- (2) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこなう。

9. その他：

第6セメスターの「国語学講読」(三宝絵を読む (下)) も連続して履修すること。

科目名：国語学講読／ Japanese Linguistics (Reading)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：大木 一夫 (教授)

講義コード：LB64206, **科目ナンバリング：**LHM-LIN313J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

三宝絵を読む (下)

2. Course Title (授業題目)：

Linguistic study of “Sampōe” (Illustrations of the Three Jewels)

3. 授業の目的と概要：

平安時代成立の仏教説話集「三宝絵」を丁寧に読みながら、日本語史の資料としての「三宝絵」がいかなる性格をもつものであるのか、そこに見られる言語はいかなるものなのかを、さまざまな視点から検討する。また、そのような検討をふまえ、「三宝絵」を資料の一端として、日本語の歴史・変遷の諸相を分析する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。
- (2) 日本語史上の問題点を見いだすことができるようになる。
- (3) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論をおこなうことができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 日本語史研究の方法 (1)
3. 日本語史研究の方法 (2)
4. 日本語史研究の方法 (3)
5. 担当範囲についての発表 (1)
6. 担当範囲についての発表 (2)
7. 担当範囲についての発表 (3)
8. 担当範囲についての発表 (4)
9. 担当範囲についての発表 (5)
10. 担当範囲についての発表 (6)
11. 担当範囲についての発表 (7)
12. 担当範囲についての発表 (8)
13. 担当範囲についての発表 (9)
14. 担当範囲についての発表 (10)
15. 担当範囲についての発表 (11)・まとめ

6. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

7. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配付する。参考文献は講義内で随時示す。

8. 授業時間外学習：

- (1) 日本語史研究にかかわる文献資料を読んで参加する。
- (2) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこなう。

9. その他：

第5セメスターの「国語学講読」(三宝絵を読む (上)) から連続して履修すること。

科目名：国語学演習／ Japanese Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：小林 隆（教授）

講義コード：LB52207, 科目ナンバリング：LHM-LIN314J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

方言調査法

2. Course Title (授業題目)：

Method of the dialect investigation

3. 授業の目的と概要：

方言のしくみや地理的広がり把握するための調査方法について具体的に検討する。記述的研究のほか、方言地理学や社会方言学、あるいは地方語文献による方言研究を取り上げる。また、方言会話の記録を一つのテーマとすることもある。学期の後半、ないし、夏休みに実際に方言調査を行うので、受講者は準備段階からそれに参加する必要がある。

4. 学習の到達目標：

方言調査の方法を検討し、実際に調査を企画・実施する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明
2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業
3. 方言的特徴の調べ方についての解説（1）
4. 方言的特徴の調べ方についての解説（2）
5. テーマ等設定に向けての作業（1）
6. テーマ等設定に向けての作業（2）
7. 中間報告（1）
8. 中間報告（2）
9. 調査票の作り方についての解説
10. 調査票の検討、方言会話の収録調査の方法
11. 調査票の検討、模擬調査と録音機の使い方
12. 現地調査と結果の分析（1）
13. 現地調査と結果の分析（2）
14. 最終報告（1）
15. 最終報告（2）、授業のまとめ

6. 成績評価方法：

レポート（50%）・出席（50%）

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は適宜教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

- ①テーマの設定、中間報告、最終報告のための準備を行う。
- ②現地調査に参加し、結果の分析を行う。

9. その他：

オフィスアワー：随時

科目名：現代日本語学講読／ Modern Japanese (Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：齋藤 倫明（教授）

講義コード：LB63503, 科目ナンバリング：LHM-LIN315J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

近世言語論講読

2. Course Title (授業題目)：

Reading of the Modern Japanese Linguistic Works

3. 授業の目的と概要：

近世言語論の大きな流れを形成した本居宣長とその学統を継ぐ一派（「八衢派」）の言語論を講読する。今年度は、そのうちの東条義門（1786～1843）の『山口栞』（1836 年刊）を読む。本書は、本居宣長の息子春庭の『詞の八衢』『詞の通路』の考えを継承し、日本語の用言についてまとめて論じたものである。本講義では、活字本と東北大学図書館蔵本の版本とを対比させつつ、一字一句精確に読み解くとともに、八衢派の流れを汲む東条義門の所説を理解することを目指す。

4. 学習の到達目標：

1. テキストに書かれていることを精確に理解する。
2. 日本語学史上における近世言語論の特質を把握する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス（講義の進め方、東条義門と「山口栞」についての概説等）。
2. 「山口栞」の講読（その一）。
3. 「山口栞」の講読（その二）。
4. 「山口栞」の講読（その三）。
5. 「山口栞」の講読（その四）。
6. 「山口栞」の講読（その五）。
7. 「山口栞」の講読（その六）。
8. 「山口栞」の講読（その七）。
9. 「山口栞」の講読（その八）。
10. 「山口栞」の講読（その九）。
11. 「山口栞」の講読（その十）。
12. 「山口栞」の講読（その十一）。
13. 「山口栞」の講読（その十二）。
14. 「山口栞」の講読（その十三）。
14. 「山口栞」講読の総括。

6. 成績評価方法：

レポート（60%）、授業への取り組み方（20%）、出席（20%）。

7. 教科書および参考書：

特に使用しない。

必要があれば適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

講義に臨むに当たっては、前回分を復習の上、次回分を読んで下調べしておくこと。

9. その他：

特になし。

科目名：現代日本語学演習／ Modern Japanese (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：甲田 直美 (准教授)

講義コード：LB61306, **科目ナンバリング：**LHM-LIN316J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

文章・談話の構造

2. Course Title (授業題目)：

Discourse and Conversation Analysis

3. 授業の目的と概要：

これまでに共有・公開されている文章・談話のデータをもとに、文章・談話研究でのデータの採取の仕方とその分析方法について整理・検討する。以下の項目を、具体例の検証とともに押さえる。

- I. データの種類とその扱い：分析の観点、ジャンル、レジスター、談話標識の研究、照応と省略、接続表現などの文法項目と適切性に関する項目の研究手法、参与構造、話者交替に関する項目の研究手法、
- II. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法、
- III. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方

4. 学習の到達目標：

- (1)文章・談話研究のために必要な方法論を身につける。
- (2)データの採取方法と採取したデータの分析方法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. データの種類とその扱い：分析の観点
2. ジャンル、レジスター、スタイルと言語差
3. テキストにおけるジャンル差
4. コーパス研究 1
5. コーパス研究 2
6. 文章における諸現象 1
7. 文章における諸現象 2
8. 会話における諸現象 1
9. 会話における諸現象 1
10. ドラマの構造分析
11. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法
12. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法
13. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法
14. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方
15. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方

6. 成績評価方法：

レポート [50%]・出席 [10%]・発表内容 [40%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

電子化データを検索し、鍵となる言語項目について分析する。論文を読んで、論点を把握し、批判的検討を行う。

9. その他：

受講希望者は前期に開講する「文章・談話の構造論」を履修しているのが望ましい。